



各 位

2026年7月28日

上場会社名	株式会社 テセック
代表者	代表取締役社長 田中 賢治
(コード番号	6337)
問合せ先責任者	取締役 戸田 雄介
(TEL	042-566-1111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2026年5月12日に公表した通期業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想数値の修正について

2027年3月期通期連結業績予想数値の修正(2026年4月1日～2027年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,300	450	590	540	104.67
今回修正予想(B)	7,000	1,100	1,300	1,040	203.13
増減額(B-A)	700	650	710	500	
増減率(%)	11.1	144.4	120.3	92.6	
(ご参考) 前期実績 (2026年3月期)	5,567	301	564	463	86.49

2. 修正の理由

期初の業績予想において、AI関連需要を背景にハンドラの受注は回復する一方、テストは低調に推移すると想定しましたが、第1四半期においてMAPハンドラを中心に受注および売上が大幅に増加しました。足元の受注残高や短納期での出荷状況を踏まえ、ハンドラの売上高を期初予想から9億円増額します。一方、テストは足元で回復の兆しがみられるものの、回復時期が想定より遅れる見込みであることから、テストの売上高を2億円減額し、売上高は70億円を予想します。

損益面は、増収効果に加え、製品構成の改善や好採算案件の売上計上等により、当第1四半期における営業利益の期初通期業績予想に対する進捗率は9割程度となりました。通期においては、過去最大となる研究開発費や人件費の増加を見込む一方、売上総利益率が期初想定を上回る見込みであることなどから、営業利益11億円、経常利益13億円、親会社株主に帰属する当期純利益10億40百万円を予想します。

なお、当第1四半期連結累計期間における米ドルの平均レートは159円となりましたが、業績予想における第2四半期以降の想定レートは160円（同期間における為替感応度は、1円安に対し20百万円程度の営業利益増）としております。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上